

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

選手登録に関しての長野モデル…登録費半額を長山協が補助！

来年度（2014 年度）から、山岳部の生徒が高体連、日山協の主催する大会に出場する場合に「選手登録」が義務化されることとなった。これは今年度夏に開かれた全国専門委員長会議の中で機関決定されたことであるが、それに伴うメリットは、1）国民体育大会・全国高等学校選抜クライミング選手権大会・インターハイ並びにその予選に出場することができる。2）山岳遭難・捜索保険に加入するための山岳共済会年会費（高校生は 500 円）が免除される。の 2 点である。最も、1）については、そもそも大会出場条件が登録をされていることであるので、メリットとはいえないかもしれないが……。では、デメリットはと考えた時には、いろいろなことが想定されるが、最大のそれは高校生に金銭的負担を強いざるを得ないことであろう。もともと競技志向の弱い山岳部の生徒にとっては、何のメリットもないばかりか、それなら山岳部などやめるという生徒が出てくる危惧もある。しかし、安全登山の観点から考えた時に、保険加入のための会費が無料になるというのは、大いに宣伝しアピールしてもいい部分である。今や保険に加入して山登りをするのは社会的常識であるにも関わらず、これまで高校現場においては、この当たり前のことが強く言われては来なかった。

長野県高体連登山専門部としては、この間上部団体である長野県山岳協会（長山協）に働きかけて、次世代育成の観点から何とか高校生の負担をいくらかでも抑えられないかを検討してもらってきた。18 日に行われた長山協理事会において、長野モデルともいべき前進的な内容を結論として出していただくことができたので紹介したい。

具体的には「長山協が登録費の半額を補助する」というのがその中身である。1000 円の登録費のうち、生徒は 500 円だけを負担し、協会が残りを負担するというものだ。これにより、これまでも日山協の保険に加入していた学校の生徒負担は、実質的には変わらないことになった。一方でこれまで保険に入っていなかった学校も選手登録はしなければならないわけで、これらの学校にとっては、本来の半額の 500 円で選手登録ができ、かつ会費を払わなくても保険料の負担だけで日山協の保険に加入することができることになるので、加入を勧めやすくなる。

小生が長山協の理事長をしているので、ある意味お手盛りという側面もあるが、しかし長野県高体連登山専門部は、これまで長山協と手を携えながら活動してきた。高体連からの要請に対して理事会の対応は温かかった。長山協の予算が決して潤沢なわけでもない中、こうした若年層へのバックアップを考えてくれる協会の気概を頼もしく思う。一方で、将来の山岳界を担う人材を育てる高体連登山専門部への期待を感じる。

この成果を他都道府県でも紹介いただき、一つのモデルとして協会、岳連に働きかけて、少しでも生徒負担の軽減を図るための参考事例としていただければと思う。たかが 1000 円、されど 1000 円である。このご時世にあつて山岳部を志す生徒を同じ山を愉しむ先輩の一人として支えたいと思う、そんな気持ちで長野県内の高校山岳部の生徒たちの後押しができればうれしい限りだ。なお、この情報をお知らせしたところ、富

山県でも長野と同様の決定がなされたとの報告をいただきましたので併せて紹介します。

スロベニア フリー&アルパインクライミングスライドショー

2月26日(水)、松本市あがたの森文化会館にてマルコ・プレゼリのスライドショーが行われるという情報を得た。スロベニア生まれのマルコ・プレゼリはヒマラヤやカラコルムをはじめ、世界中の数々の岩壁で記録を残しているアルパインクライマー。世界中のアルパインクライマーのオピニオンリーダー的存在でもあり、ピオレ・ドールも受賞している。もし興味がおありの方はどうぞ。

以下、PRチラシより抜粋***

スロベニアは中央ヨーロッパに位置し、イタリア、オーストリア、クロアチア、ハンガリーとそれぞれ国境を接し、ヨーロッパの文化や交易の交差点となっている。日本の18分の1程の面積に、205万人の人口を擁する小さな国だ。アルプス山脈とディナル・アルプス山脈、地中海のアドリア海に沿った少ない海岸部分のヨーロッパの4つの大きな地理的な部分が接しており、小さな国土の中に多様で美しい自然が詰め込まれている。

街から少し足を伸ばせば、のどかな農村を囲むように、雄大な山々が広がっている。そこにはスイスやフランスのアルプスに見られるロープウェイやトロッコは見当たらない。太古の昔から変わらないアルプスの原風景が、ロッジの裏手から手を伸ばせば届きそうな距離に現れる。その光景は訪れるより人、すべてを魅了することだろう。

そんなスロベニアという国、自然、クライミングを、世界的アルパインクライマーであるマルコ・プレゼリ氏をはじめ、スロベニアの若手クライマー達を招いて紹介してもらう。

*主 催：ウィンタークライマーズミーティング

*日 時：2月26日(水) 20:00~21:30

*話 者：マルコ・プレゼリ他、スロベニアクライマー

*参加費：無料 *定 員：先着約80名 *駐車場：40台

*会 場：あがたの森文化会館「第一会議室」 松本市県3-1-1 電話0263-32-1812

編集子のひとごと

2週続きの大雪には参った。記憶が存在する私の半世紀に及ぶ人生の中でも、これほどの雪は経験がない。雪で学校が休校になったのは98年以来16年ぶりだ。9日、10日の信高山岳会の八ヶ岳山行は中止にせざるを得なかった。そしてこの週末18日からの大雪には振り回され、未だに学校は短縮授業での展開となっている。降り始めの金曜日には偶々夜長野で会議があり、途中回り道もあったものの、夜10時に出発して帰宅できたのは明け方の3時30分だった。土曜日は日山協の代表者会で東京へ行くはずが、長野県から脱出するすべての交通網が遮断され、終日雪かき。松本市の最大積雪は9日の雪が49センチ、まだその雪が残るところにやってきた18日からのそれは75センチだった。翌日曜日は、動いているという情報を信じて朝5時半に自宅を出て長野回り新幹線で上京を試みたものの、見切り発車の新幹線が軽井沢で立ち往生。結局そこから引き返して来ざるを得ず、這々の体で自宅に帰り着けたのが午後8時だった。月曜日は臨時休校で、職員総出で学校の除雪。長野県内はもとより、山梨県、群馬県、埼玉県の深刻な地域の状況はいかほどかと思う。関係の皆様ご無事でしょうか？(大西 記)